

# 身のまわりの事故に注意

## 誤飲編

赤ちゃんは生後5ヶ月ごろから手にもったものを何でも口にいます。

**1位**  
医薬品

**2位**  
化粧品

**3位**  
たばこ

事故は家の中の特にリビング（居間）でもっともおきています。

何も飲ませず吐かせない

- 石油製品  
(灯油・マニキュア・除光液・液体の殺虫剤 など)
- ボタン電池
- 防虫剤の樟脳(しょうのう)

たくさん飲みこんでしまったら!!

水や牛乳を飲ませて吐かせない

- 漂白剤
- 石けん
- シャンプー
- ボディシャンプー
- シャボン玉液
- 酢
- 生石灰
- 強酸性・強アルカリ性洗剤  
(トイレ用・排水パイプ用・換気扇用 など)

水や牛乳を飲ませて吐かせる

- 大部分の医薬品
- 芳香剤
- 香水
- 化粧水
- 花火
- ホウ酸団子
- たばこを浸した液体
- 酒・アルコール類
- 弱酸性・中性・弱アルカリ性洗剤  
(台所用・洗濯用・風呂用・おむつ用 など)

すぐに病院へ

何も飲ませず吐かせる

- たばこ（吸い殻・葉）

中毒性がほとんどないもの

- ・シリカゲル
- ・鉛筆
- ・消しゴム
- ・線香
- ・紅
- ・マッチ
- ・紙おむつ
- ・マジック
- ・クレヨン
- ・カイロ

## 事故（傷害）予防は子どもの発達を考えて

傷害に対するある程度の応急処置を知っておくことも大切ですが、やはり普段から事故（傷害）予防に心掛けることが最も重要です。子どもの事故（傷害）は強く子どもの発達と関連します。4か月までの乳児では寝返りも出来ず、手もうまく使えないので、吐いたものや袋などで窒息の危険があります。4～7か月では寝返りや手が使えるようになるため、ベッドからの転落や小さな物の誤飲・誤嚥、窒息の危険があります。1歳ごろになると移動が出来るようになるため、階段・イスからの転落や浴槽での溺水が、さらに大きくなると屋外の遊具でのケガや道路での交通事故が心配されます。

## 乳児では誤飲に注意！

乳児は何でも口に持っていくため、誤飲事故が起こり易くなります。わが国では諸外国に比べて誤飲事故が多く、畳や床での生活様式が関係しているかもしれません。誤飲で多いのは、①たばこ、②医薬品、③化粧品、④洗剤、⑤殺虫剤です。

0歳児の事故の原因（複数回答）  
平成22年

